

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 稲田俊一郎

本論文は、極小主義による最近の生成文法理論 (MP) に基づく統語演算とそれに連関する意味解釈についての研究で、制限的關係節に焦点をあて、再構築効果をはじめとする關係節に関するさまざまな経験的事実を原理的に説明しうる統語演算の仕組みの解明をめざし、制限的關係節構造における關係節とそれが修飾する Head Nominal (HN) との間にみられる複雑な關係を捉えうる統合的統語分析を提案したものである。

本論文の構成と研究成果は以下の通りである。本論文は、①論考の基盤となる理論的枠組みと研究対象とする言語事象および研究課題を提示した第1章、②束縛關係等にみられる再構築効果を考察して、主節要素である HN は、關係節内でも解釈されうるとともに、主節要素として關係節を伴わずに解釈されうるといふ記述的一般化を提示して、従来の關係節の付加分析でも主要部繰り上げ分析でも説明されえない事例があることを指摘し、制限的關係節構造は HN が關係節内で生起して名詞句内に繰り上がると同時に主節では關係節を伴わずに生起しうることを導くような統語演算により構築されなければならないという知見を示した第2章、③このような構造は MP の併合操作により構築される理論的に可能な構造のひとつで、HN の共有併合(Share Merge)分析により形成されるもので、このような構造は、制限關係節を含む文の意味は HN を共有する主節と關係節の和集合として捉えられとす統語と意味のインターフェイスにおける相関特性も導きえるものである主張する一方、多重支配構造となる HN の共有構造がはらむ線形化の問題は名詞句の精緻化された内部構造分析に基づき HN を機能範疇 NumP として分析することにより解決されることを示し、これまで統一的に説明されえなかつた再構築効果は統合的統語分析の帰結として導出されることを論証した第3章、④著者のこれまでの研究成果を踏まえて、制限的關係節と構造的類似性を有するが HN が意味的には名詞的ではないような副詞的關係節、量的關係節、連体的比較節について英語と日本語の事例を考察し、これらの関連構文も新たな統合的統語分析によって説明されると論じ、英語と日本語における変異特性は各構文の統語演算に参与しうる要素の語彙的・形態的な相違によることを示した第II部の第4章から第7章、⑤研究成果の理論的意義を概括し、今後の研究課題をまとめた第8章からなる。

本論文は、外位置化された制限的關係節における再構築効果についてのさらなる検討や関連構文の統語・意味特性に関するさらなる踏み込んだ検討を要する部分がみられるが、これまでの膨大な先行研究を深く吟味して綿密な論考を積み重ね、射程の広い統語分析の可能性を提示しており、MP に対して多くの理論的貢献をなしうる労作であると評価された。よって、本審査委員会は、本論文が博士(文学)の学位を授与するのにふさわしいものであるという結論に達した。